

## 令和 7 年定例 1 2 月会議一般質問

質 問 者	質 問 事 項 及 び 要 旨	質問の 相手
今田 光弘	<p><b>町内の各種イベント等を見直して無理せず継続できるような工夫を</b></p> <p>今年「ながさきピース文化祭 2025」が県内で開催され、本町でも関連したさまざまな行事やイベントが開かれた。また 5 年ぶりの町民レクリエーション大会をはじめ、役場や民間団体主催の講演会・イベント、こども園や各学校での行事なども目白押しで、「充実して良かった」との声がある一方、「疲労困憊」との声も多く聞かれた。</p> <p>人口減少と少子高齢化が止まらない本町では財政的・人的資源の限界が顕在化しており、このまま町民の負担がさらに増すことで行事やイベントが苦痛となってしまえば本末転倒になってしまう。</p> <p>町内の多くの公共施設が更新時期を迎えていることも踏まえ、以下 4 点について町長の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種イベント等の目的と効果を踏まえた「選択と集中」について</li> <li>2. 会場・開催時期・運営方法の工夫について</li> <li>3. 質を向上させて町民の満足度を高める工夫について</li> <li>4. 町民・各種団体との協働体制について</li> </ol>	町 長
小辻隆治郎	<p><b>高校魅力化による、北松西高存続と町の活性化について</b></p> <p>先々月に隠岐諸島の海士町に視察に行ってきました。隠岐の島前高校は 2008 年には 3 町村併せて 28 名と島根県の公立高校存続に抵触する一歩手前の危機的な状況にありましたが、それが現在は在校生 150 名余りと飛躍的な増加を遂げたのは、どういう理由によるのかその謎を探るためでした。ある程度山内前町長の本を読むなどして前知識は持っていました。それは「公営塾」設</p>	教育長 町 長

	<p>立を起点にした高校を作ることで、都会並みの学力の充実を図り子供たちを島にとどめる施策をとったことが大いに役立ったとのこと。公営塾を立ち上げることは3町村の主だったメンバーを招集し議論の上に判断したそうです。それでは、質問に移ります。まず、教育長にお伺いします。</p> <p>①「ふるさと留学」生を含めて、3年後は1学年を何名までに増やす計画をしておりますか？</p> <p>② 県教育委員会は小値賀の場合は一島一町であり、高校存続が地域の活力に影響があるところから町、地域、関係各団体等との十分な協議をすること、また国のグランドデザインの内容を踏まえた新たな推進や過疎地への配慮を要すること等の記述に余裕を持たせてくれてる感じを持つのですが、教育長はどう捉えておりますか？</p> <p>③ 先日、隠岐の島前高校の魅力化とりわけ公営塾「隠岐国学習センター」の立ち上げに携わった講師による講演会を開催しましたが、小値賀の教育委員会も公営塾について前向きに考え始めたのかなと思ったのですが、如何ですか？</p> <p>次に、町長にお伺いします。</p> <p>この公営塾「隠岐国学習センター」の設立による島前高校の魅力化は大成功だったと考えます。まず高校存続が明白になったことです。これでも成功といえますが、さらに最大の効果はその成功により島前3町村、殊に海士町の活気を最大限に引き出したことではないでしょうか。町づくりにも大いに貢献したのではないかと確信します。高校魅力化による北松西高存続はひとり教育委員会だけではなく、町長部局も共に取り組むべき問題だと考えますが、如何でしょうか？</p>	
森岡 正雄	<p><b>若者の短期移住制度の導入について</b></p> <p>先般、総務文教厚生常任委員会で島根県海士町を視察した。離島である海士町は、人口規模、本土までの移動時間、合併問題、産業、</p>	町 長

	<p>少子高齢化、人口流出、人材不足、高校存続など、小値賀町と瓜二つのような存在だ。</p> <p>その海士町が尽力している施策の一つに『大人の島留学』がある。20代の若者に限定した短期移住制度で、3ヶ月、6ヶ月、1年の3つのコースがあり、『移住』ではなく『滞在』を売りにし、現在年間200人以上が留学生として滞在し、内1割ほどが島に残ると言う。その影響で、高齢化率は39.7%という衝撃的な数字だ。島のどこに行っても若い留学生がおり、若者の存在が島の活性化に繋がっている事に疑いの余地はない。</p> <p>これからますます人口減が見込まれる本町においては、現在取り組んでいる移住者施策はそのままに、新たに短期移住制度を導入することで、第5次総合計画にある人口目標の達成を目指すべきと考え、町長に以下2点を質問する。</p> <p>① 現状の移住者施策で、総合計画にある人口目標の達成や、深刻な人材不足を解消できるか。</p> <p>② 本町の施策に、海士町のような短期移住制度を導入する気はあるか。</p>	
橋本 武士	<p><b>獣医師確保およびペット医療体制の整備について</b></p> <p>本町における獣医師不在の状況を踏まえ、移住促進政策および生活基盤整備の観点から、獣医師確保に向けた取り組みの必要性を問う。特に、町として獣医師募集を公式に発信する姿勢を示す意義について質す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本町の移住政策における「生活の安心」の整理について</li> <li>2. ペット医療体制をどのように位置付けているか</li> <li>3. 獣医師確保に向けた町の具体的行動の意思について</li> <li>4. 町のホームページに獣医師募集を掲載することについての見解</li> </ol>	町 長

立石 光助	<p data-bbox="405 159 1339 264"><b>持続可能な町政運営を実現するための「職員の働きがい」と「専門性」の向上に関する人事戦略について</b></p> <p data-bbox="368 338 1342 611">人口減少が進む中、本町が独立した地方自治体として持続可能な行政サービスを続けるために重要な資源は職員と考える。時代が急速に変化する中、町の人事戦略が従来そのままでは、職員のモチベーション低下や離職、ひいては行政サービスの質の低下を招くことが懸念される。以下の点について町長の具体的な施策を伺う。</p> <ol data-bbox="405 689 1339 1021" style="list-style-type: none"> <li>1. 国の「人材育成・確保基本方針策定指針」改定への対応と本町のビジョンについて</li> <li>2. 「対話」によるキャリア形成の支援について</li> <li>3. 専門性の向上による業務の効率化と住民満足度の向上、働き甲斐の向上を目的としたジョブローテーションの見直しについて</li> </ol>	町 長
-------	---	-----